

## 日常の不便障害者の目で

### 樽商大でバリアフリー講演

学校や企業での講演活動に取り組み障害者グループ「障がい当事者講師の会すぷりんぐ」(札幌)の代表牧野准子さん(61)の講演が17日、小樽商大で開かれ、障害のある人が感じている日常の不便さなどについて語った。

片桐由喜教授の社会保障法の講義の一環として行い、学生や職員120人が

耳を傾けた。牧野さんは2005年、脊髄の進行性の難病を発症し車いす生活が始まった。退院後「家の中がバリアだらけで驚いた。元気なときは気づかなかつた」と話し、トイレに手すりを付けたり、浴室の段差をなくしたことを紹介した。

また、車いす専用駐車場に車いすマークが付いていない車両が止まっているこ

とち、エレベーターのボタンが高くて押せないなどの日常の不便を指摘。「少しの配慮で助かることもある。まずは困る人がいることを知ってもらえたら」と

語った。

飲食店でアルバイトをしている学生から「どのような対応をしてくれたら助かるか」と質問され、牧野さんは「その気持ちがある。まずは本人に『手伝えることはありますか』と聞いてください」と答えた。

(前野貴大)



自身の経験や、障害のある人が感じている日常の不便さについて語った牧野さん